

JAPAN SOCIAL EDU

主催 一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部

ジャパン・ソーシャル・エデュケーション・アワード 2020 実行委員会

あなたの投票が社会教育をリデザインする！

今年で3年目の開催となる JAPAN SOCIAL EDUCATION AWARDS (以下、アワード)。このアワードでは、革新的で未来を感じさせる取組を行っている実践者を「イノベーション賞」として表彰する他、2020 年に本誌へ掲載された魅力的な記事から、「ゴールドアティクル賞」「シルバーアティクル賞」「ブロンズアティクル賞」を読者投票により決定します。今年度より新たに連載部門（候補作は次ページ）も新設され、さらに社会教育の取組を評価し、その価値を外部へ幅広くプロモーションしていきます。候補作は本誌編集長を含む実行委員会で選定会を行い、ここに候補となる記事を9つ選びました。次ページに掲載している応募方法により、あなたが選ぶ「社会教育」のベストアティクルを投票してください。

2020年 受賞候補一覧 ~アティクル部門~ (掲載月順 ※肩書は執筆時)

A 公民館の事業構想：地域のソーシャル・キャピタルを育む拠点として
荻野 亮吾 佐賀大学大学院 学校教育学研究所 准教授 2020年5月号

B 高齢者のデジタル活用支援の事業構想：英国事例を参考に
岩崎 久美子 放送大学 教授 2020年5月号

C 地域づくりと田園回帰・関係人口 —農山村の変化と展望—
小田切 徳美 明治大学農学部 教授 2020年6月号

D 関係人口を通して地域の持続性を高める
—関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」の事例より—
草野 竹史 NPO 法人 ezorock 代表理事 2020年6月号

E 「海外」からみた日本の社会教育・生涯学習
~これからどんなデザイン・工夫が必要か~「すみだ学習ガーデン」の事例を引きながら—
小川 晃弘 メルボルン大学 教授 2020年7月号
武本 浩和 すみだ学習ガーデン 元理事長

CATION AWARDS 2020

—読者が決める専門誌『社会教育』のWEB総選挙—

過去受賞者からのメッセージ

2020 年を象徴するトピックは、なんといっても私たちが今も振り回され続ける新型コロナウイルス感染症のもとで受けた影響は、社会教育に大きな影響をもたらしました。しかし、こういうときこそ、社会教育の社会インフラとしての本質的な価値が問われていると言えます。あるいは「学びを止めない」新たな挑戦も誌面で提言されてきました。

そんな 2020 年の注目記事を改めて再読し、ぜひあなたの推しを投票ください！

(アワード 2018 グッドアティクル賞 たま社会教育ネットワーク)

オンライン新時代の生涯学習支援
~「教育」と「生き方」と「地域・社会」の新しい関係をつくる~

2020年8月号 特定非営利活動法人 地域学習プラットフォーム研究会 理事長 **柵 富雄**

Re:Design 社会教育 No.003
社会教育のモヤモヤをオンラインで考えよう！
—With コロナ社会における新しい学び—
2020年9月号 **たま社会教育ネットワーク**

被災「地域」における
コミュニティ再生に向けた社会教育からのアプローチ
2020年10月号 檜葉町立檜葉南小学校 教諭 **猿渡 智衛**

社会教育主事1年目実践レポート
~コロナ禍での学びを止めない事業づくり~
2020年12月号 荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課 社会教育主事兼総括社会教育指導員 **中泉 理奈**

あなたが選ぶ受賞候補にない最高の記事

2020年1月~12月号